

コロナ禍における大学生のオンライン学習状況に関する調査報告(速報)：九州大学と北京大学の比較

黄, 薇

九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻：修士課程

陣内, 未来

九州大学教育学部：学部生

木村, 円香

九州大学教育学部：学部生

木村, 拓也

九州大学大学院人間環境学研究院：准教授

他

<https://doi.org/10.15017/4488120>

出版情報：九州大学教育社会学研究集録. 22, pp.45-52, 2021-09-29. Seminar of Educational Planning, Measurement, Evaluation, Department of Education, Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

コロナ禍における大学生のオンライン学習状況に関する調査報告（速報）

—九州大学と北京大学の比較—

Survey Report on Online Learning Status of University Students during the Coronavirus Pandemic (Preliminary Report)

—Comparison between Kyushu University and Peking University—

黄薇 陣内 未来 木村 円香 木村 拓也 鮑威

1. 調査の基本情報

本調査は北京大学教育学院鮑威「学部生オンライン授業学習状況調査」リサーチグループ(原語：北京大学教育学院鮑威《本科学生线上课程学习情况调查》课题组)によって、2020年7月から9月にかけて行われた「コロナ禍における大学生のオンライン学習状況に関する調査」(原語：疫情期间本科学生在线课程学习情况调查)と、その調査票を九州大学教育計画測定・評価論研究室で和訳して調査したものである⁽¹⁾。日本での調査期間は2020年10月下旬から12月上旬にかけて行った。尚、両調査共にインターネット上で行われた。

回答者数は中国が3537件であり、日本が107件であった。その内、中国では回答者の所属が北京大学であるもの(回答者109名)を、日本では九州大学であるもの(回答者83名)に限定し、比較検討を行った。

調査は第一部から第五部までの計29項目あり、以下では部ごとに結果の概略を整理していきたい。

2. 第一部概要

2-1. 標本の特徴について

両大学の男女比についてであるが、九州大学と北京大学の双方で両性約50%ずつを得た。ただ、九州大学の男女比はおおよそ7:3である(九州大学,2019)為、九州大学に関して言えば標本の男女比に偏りを指摘できる。尚、北京大学については公式に発表された男女比を確認するこ

とができなかった。

表1:あなたの性別を教えてください。

性別	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
男子	39(48%)	56(51%)
女子	43(52%)	53(49%)

また、専攻では九州大学では教育学専攻が34%と最も多く、北京大学では文学専攻が39%と最多となっている。

表2:あなたの専攻を教えてください。

専攻	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
哲学	1(1%)	4(4%)
経済学	3(4%)	4(4%)
法学	6(%)	10(9%)
教育学	28(34%)	0(0%)
文学	12(15%)	42(39%)
歴史学	4(5%)	2(2%)
理学	14(17%)	24(22%)
工学	7(9%)	14(13%)
農学	7(9%)	0(0%)
医学	0(0%)	4(4%)
経営学	0(0%)	4(4%)
芸術学	0(0%)	1(1%)
合計	82(100%)	109(100%)

これらより、母集団からの標本としては偏りがあるものとして留意する必要がある。

2.2.回答者のオンライン環境について

オンライン環境について、「9. オンライン授業期間中の御宅のネット状況について教えてください。」では「1. 安定している」と回答した学生が九州大学で93%、北京大学で84%となっており、多くの学生は安定したオンライン環境下で学習ができていると考えられる。一方で「2. 頻繁に途切れる」と回答した割合が九州大学で8%、北京大学で13%あり、約1割の学生が不十分な環境下でオンライン学習を強いられている可能性がある。

表 3:オンライン授業期間中の御宅のネット状況について教えてください。

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1.安定している	74(93%)	92(84%)
2.頻繁に途切れる	6(8%)	14(13%)
3.ネット環境がない	0(0%)	3(3%)
合計	80(100%)	109(100%)

さらに、そのような学習環境の面で言えば、「11. 勉強に集中するための静かな環境が整っている自分の部屋がありますか?」において「2.いいえ」と答えた割合が九州大学で7%、北京大学で18%であった点は注目するべきであろう。

表4:勉強に集中するための静かな環境が整っている自分の部屋がありますか?

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1.はい	76(93%)	88(81%)
2.いいえ	6(7%)	21(18%)
合計	82(100%)	109(100%)

コロナ禍において大学における学習環境が制限される中、自宅で満足に学習できない学生が存在していることは今後、対面授業の数を増やしていく際や、施設の再

開放を進める上で考慮しなければならない点ではないか。

3. 第二部概要

3-1.オンライン授業の履修状況等について

九州大学と北京大学の学生が履修したオンライン授業の単位数の平均は九州大学が22.3、北京大学が21.8となっており、両者にそこまで差はないと言える(項目12-2より)。

表 5.受講したオンライン授業の単位数

	九州大学	北京大学
回答者	79名	109
平均値	22.3	21.8
標準偏差	9.9	3.7
最小値	0.0	6.0
第一四分位数	18.0	20.0
中央値	21.0	22.0
第三四分位数	27.0	24.0
最大値	63.0	30.0

一方で授業形式別でみると、ライブ配信式のみ(項目13-1)の授業形式について、九州大学の学生は平均6つを受講し、北京大学の学生は平均約4つを受講している。

表 6.受講したオンライン授業の授業形式(ライブ配信式)の数

	九州大学	北京大学
回答者	79名	109
平均値	6.0	4.3
標準偏差	4.3	2.1
最小値	0.0	0.0
第一四分位数	3.0	3.0
中央値	5.0	4.0
第三四分位数	8.0	5.0
最大値	21.0	10.0

オンデマンド型のみ(項目13-2)では九州大学の学生が平均6つを受講し、北京大学の学生が3つを受講していた。

表 7. 受講したオンライン授業の授業形式
(オンデマンド式)の数

	九州大学	北京大学
回答者	79名	109
平均値	6.1	3.2
標準偏差	4.3	2.0
最小値	0.00	0.0
第一四分位数	3.0	2.0
中央値	5.0	3.0
第三四分位数	8.0	4.0
最大値	21.0	10.0

両者を混ぜたタイプの授業(項目 13-3)は九州大学の学生で平均2つ、北京大学の学生で平均1つを取っており、非常に少ない点を読み取れる。また開講されなかった科目があったとする学生が九州大学で40%、北京大学で14%いた。

表 8. 受講したオンライン授業の授業形式
(オンデマンド式とライブ配信式の混用)
の数

	九州大学	北京大学
回答者	74名	109
平均値	2.2	1.3
標準偏差	5.1	2.0
最小値	0.0	0.0
第一四分位数	0.0	0.0
中央値	0.0	1.0
第三四分位数	2.0	1.5
最大値	28.0	10.0

2-2. 学生の時間配分について

まず注目する点として、「14. あなたは以下の項目に一週間でどれくらい時間を使いますか? (時間/週)」において九州大学の学生は授業にかかる時間が長い人が多い一方で、授業後の学習時間が短い傾向にある。具体的には、「14-2. 授業後の勉強」の項目で「3 時間から 5 時間」に回答している割合が39%と最も高く、「16 時間から 20 時間」「21 時間以上」に回答している割合は合わせて12%しかない。一方で北京大学の学生は授業に関する学習時

間について「16 時間から 20 時間」と答えている人の割合が最も多く、授業後の学習時間では「21 時間以上」の解答割合が19%となっている。九州大学の学生は授業には多くの時間を費やす(即ち、多くの授業を履修する)ものの、授業後の学習には北京大学の学生ほど取り組んでいない実態が分かる。

表 9. 授業後の勉強(仕事時間と授業用資料の閲覧時間など)

選択肢 (時間/週)	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
0 時間	3(4%)	1(1%)
1 時間から 2 時間	17(21%)	5(5%)
3 時間から 5 時間	32(39%)	20(18%)
6 時間から 10 時間	12(15%)	25(23%)
11 時間から 15 時間	8(10%)	20(18%)
16 時間から 20 時間	4(5%)	17(16%)
21 時間以上	6(7%)	21(19%)
合計	82(100%)	109(100%)

その他の「14-3. 娯楽」「14-4. SNS」には九州大学と北京大学との間に大きな差は見られなかった。しかし、「14-5. スポーツ」に関しては九州大学において「0 時間」の割合が40%いるのに対して、北京大学の学生は6%となっていた。北京大学の学生に関しても、多くの時間をスポーツに費やしているわけではないが、それでも多くの学生が空いている時間でスポーツを行っている。

表 10. スポーツ

選択肢 (時間/週)	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
0 時間	33(40%)	6(6%)
1 時間から 2 時間	34(41%)	42(39%)
3 時間から 5 時間	7(9%)	34(31%)
6 時間から 10 時間	3(4%)	19(17%)
11 時間から 15 時間	2(2%)	3(3%)
16 時間から 20 時間	1(1%)	2(3%)
21 時間以上	2(2%)	3(3%)
合計	82(100%)	109(100%)

コロナ禍の大学生の精神状態についてはしばしばメディアでも取り上げられたが、授業以外の時間をどう過ごしているかという点は学生の心身の健康状態について考える上でも重要な要素と言える。

4. 第三部概要

4.1.オンライン授業の在り方について

特徴的であったのは「16.4.学生の授業への参加度を重視しており、授業や質問や議論を取り入れる。」のや「16.5. 学生個人またはグループに課題を与えて、それに関するグループワーク、研究成果発表に参加させる。」の項目である。「16.4.学生の授業への参加度を重視しており、授業中に質問や議論を取り入れる。」では「6.いつもする」「5.よくする」と回答した割合が九州大学では合わせて24%なのに対し、北京大学では53%となっている。

表 11. 学生の授業への参加度を重視しており、授業中に質問や議論を取り入れる。

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1. 全くしない	2(3%)	2(2%)
2. ほとんどしない	14(18%)	12(11%)
3. どちらかという としない	26(33%)	15(14%)
4. どちらかという とする	18(23%)	22(20%)
5. よくする	14(18%)	24(22%)
6. いつもする	5(6%)	34(31%)
合計	79(100%)	109(100%)

「16.5. 学生個人またはグループに課題を与えて、それに関するグループワーク、研究成果発表に参加させる。」の項目では「5.よくする」「6.いつもする」を合わせた割合が九州大学では17%なのに対し、北京大学では65%であった。

表 12. 学生個人またはグループに課題を与えて、それに関するグループワーク、研究成果発表に参加させる。

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1. 全くしない	5(6%)	4(4%)
2. ほとんどしない	16(20%)	11(10%)
3. どちらかという としない	26(33%)	11(10%)
4. どちらかという とする	18(23%)	23(21%)
5. よくする	9(11%)	32(29%)
6. いつもする	5(6%)	28(26%)
合計	79(100%)	109(100%)

これらの結果からは、北京大学の授業は九州大学に比べて授業においてディスカッションや課題に対する研究活動が多く取り入れられており、学生の授業への積極的な参加を促す授業が多い点が見えてくる。

4.2.オンライン授業に取り組む姿勢について

両大学間で差が見られた点として、まずは「17.8. 授業後は授業に関する質問についてクラスメイトと議論したり、考えたりする」の項目が挙げられる。九州大学では「1.全くしない」「2.ほとんどしない」で約50%が占められるが、北京大学では「5.よくする」「6.いつもする」で全体の約50%を占めている。

表 13. 授業後は授業に関する質問についてクラスメイトと議論したり、考えたりする。

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1. 全くしない	16(20%)	4(4%)
2. ほとんどしない	23(29%)	12(11%)
3. どちらかという としない	12(15%)	13(12%)
4. どちらかという とする	14(18%)	27(25%)
5. よくする	10(13%)	24(22%)
6. いつもする	4(5%)	29(27%)
合計	79(100%)	109(100%)

この点は上記で挙げたような授業後の学習ともつながる点ではないだろうか。即ち、北京大学の学生は授業後に友人らと授業内容について共に学習する姿勢が窺えるが、九州大学の学生は授業後の学習を行うものは非常に少ない。同様の指摘は「17-10. 授業後に資料を使って自ら勉強する」の項目を見ても指摘することができよう。北京大学の学生は授業後の勉強について「5.よくする」「6.いつもする」と回答している割合が合わせて49%に上るが、九州大学の学生は24%と北京大学の約半数であった。

5. 第四部概要

5-1. オンライン授業の授業設計に対する評価について

オンライン授業の授業設計に対する評価について、「どちらかというとも良くなった」と「よくなった」の回答割合の合計値が50%を超えた項目を見てみると、北京大学の回答において、唯一対面授業と比べて良くなった項目は「18-9 授業連絡用のLINEグループ（中国ではWechat）やクラウドファイルを作った」ことである。これはコロナによって、大学のICT化がさらに進んでおり、教員もチャット機能のあるアプリ等を使い、生徒に即時対応できるように対策していると考えられるだろう。

表 14. 授業後に資料を使って自ら勉強する

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1. 全くしない	5(6%)	3(3%)
2. ほとんどしない	15(19%)	10(9%)
3. どちらかという としない	18(23%)	11(10%)
4. どちらかという とする	22(28%)	32(29%)
5. よくする	13(16%)	28(26%)
6. いつもする	6(8%)	25(23%)
合計	79(100%)	109(100%)

表 15. 授業連絡用のLINEグループ（中国ではWechat）やクラウドファイルを作った

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1.良くなかった	16(21%)	1(1%)
2.どちらかという と良くなかった	12(16%)	3(3%)
3.あまり変わって いなかった	14(18%)	14(13%)
4.同じだった	15(19%)	30(28%)
5.どちらかという と良くなった	14(18%)	33(30%)
6.良くなった	6(8%)	28(26%)
合計	77(100%)	109(100%)

また九州大学の方では、「18-1. 受講前に、授業に関する閲覧資料が十分に提供されていた」と「18-4. 授業形式がもっと多様になった」の項目の「どちらかというとも良くなった」と「よくなった」の回答割合の合計値が50%を超えた。これはコロナによって単一だった対面式授業がオンデマンドやオンライン形式の授業に代替され、また授業の形式にそって資料の事前提供が求められるようになったことによる結果と理解できるだろう。

表 16. 受講前に、授業に関する閲覧資料が十分に提供されていた。

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1.良くなかった	2(3%)	4(4%)
2.どちらかという と良くなかった	3(4%)	13(12%)
3.あまり変わって いなかった	11(14%)	27(25%)
4.同じだった	21(27%)	33(30%)
5.どちらかという と良くなった	28(36%)	18(17%)
6.良くなった	12(16%)	14(13%)
合計	77(100%)	109(100%)

表 17. 授業形式がもっと多様になった。

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1.良くなかった	2(3%)	6(6%)
2.どちらかという と良くなかった	5(6%)	20(18%)
3.あまり変わって いなかった	9(12%)	24(22%)
4.同じだった	14(18%)	21(19%)
5.どちらかという と良くなった	25(32%)	22(20%)
6.良くなった	22(29%)	16(15%)
合計	77(100%)	109(100%)

4-2. これからの授業形態について

これからの授業形態について、項目「21 コロナ禍が終わったら、今後はどのような授業形式が採択されると思いますか」に対する回答から見ると、九州大学の学生らは対面授業とオンライン授業の「両者を併用して、対面授業をメインにする」を選んだ割合が65%を占め、「完全に対面授業にする」と回答した人は僅かに11%であった。それに対して、北京大学の方は51%の割合の回答者が「両者を併用して、対面授業をメインにする」ことを選び、それと同時に「完全に対面授業にする」を回答した人数の割合も40%に達した。この結果から、両大学の学生はいずれもオンライン授業に対して決してネガティブな態度をとっていないことがわかった。また北京大学に学生の方が馴染みのある対面授業に復帰したい希望を持っている人が多いこともこの結果でわかった。

表 18. コロナ禍が終わったら、今後はどのような授業形式が採択されると思いますか。

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1.完全にオンラ イン授業にする	2(3%)	2(2%)
2.完全に対面授 業にする	9(11%)	44(40%)
3.両者を併用し て、オンライン授 業をメインにする	17(21%)	8(7%)
4.両者を併用し て、対面授業をメ インにする	52(65%)	55(51%)
合計	80(100%)	109(100%)

6. 第五部

6-1. 近い将来における社会状況について

近い未来の経済情勢に関して、項目「22 これからの3年間の社会経済発展に対してあなたはどのように思いますか」が挙げられる。これからの3年間の社会経済発展に対して、九州大学の学生の回答結果の平均値は4.5であった。それに対して、北京大学の学生の回答結果の平均値は、5.3に達した。また九州大学の方の回答結果の標準偏差は2.0であり、北京大学の方は2.2である。この結果から、九州大学の学生の方が少しネガティブな予想を抱いているが、北京大学の学生の方が比較的にポジティブな思考を持っていると考えられるだろう。

表 19. これからの3年間の社会経済発展に対してあなたはどのように思いますか。

	九州大学	北京大学
回答者	81名	109
平均値	4.5	5.3
標準偏差	2.0	2.2
最小値	1.0	1.0
第一四分位数	3.0	4.0
中央値	4.0	5.0
第三四分位数	6.0	7.0
最大値	10.0	10.0

5.2.学生の進路について

両大学の学生の将来の進路期待を尋ねた項目の「25 大学（本科）卒業後の進路計画を教えてください」の結果について、北京大学の方では、「国内大学院に進学する」、「海外に留学する」割合はそれぞれ 50%と 26%であり、「就職する（起業も含む）」は 8%と極めて低い割合にとどまった。北京大学と対照的に、九州大学の学生は 45%が「就職する（起業も含む）」を選択し、「国内大学院に進学する」（34%）との回答よりもはるかに割合が高い。また九州大学の回答者の中に「海外に留学する」を選択した人の割合は僅か 1%であった。これらのデータから、北京大学の学生の多くは高学歴取得を希望する傾向が強いことがわかった。また九州大学の学生では進学よりも社会に進出したい傾向があることもうかがえるだろう。

表 20. 大学（本科）卒業後の進路計画を教えてください。

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1. 国内の大学 院に進学する	28(34%)	54(50%)
2. 海外に留学 する	1(1%)	28(26%)
3. 就職する (起業も含む)	37(45%)	9(8%)
4. まだ明確な 計画を考えて いない	16(20%)	18(17%)
合計	82(100%)	109(100%)

続いて将来の就職先を問う「27 あなたは将来どこに就職したいですか」と就職領域を問う「28 あなたは将来どの領域に就職したいですか？」の 2 項目の回答については、九州大学の回答者の多く（22%）は民間企業を希望し、政府機関や高等教育機関に就職したい人数もそれぞれ 20%と 18%である。それに対する北京大学では、回答者の 19.3%が国有企業に就職する志向をもち、一番高い割合を占めた。両大学のデータを合わせてみると、「まだ決まっていない」を選択した人数の割合はいずれも少な

くない。北京大学の方ではむしろ「まだ決まっていない」人数が一番多かった。割合としては回答者全体の中の 29.4%を占めた。ここで気になったところは医療衛生機関や外資系企業を選択した人数の割合はいずれの大学でも少ない。これは回答者の属性によるデータの偏りがあるからだと推測できるだろう。最後に、両大学の回答者の就職したい領域についてみてみると、九州大学では教育領域を選択した人数の割合が一番高い。北京大学のデータでも同じようなことが見られた。これは前述した就職先に関する内容と同じようにサンプルの偏りによるものだと考えられるだろう。

表 21. あなたは将来どこに就職したいですか。

選択肢	九州大学	北京大学
	回答者数(%)	回答者数(%)
1. 政府機関	16(20%)	13(11.9%)
2. 国有企業	1(1%)	21(19.3%)
3. 民間企業	18(22%)	14(12.8%)
4. 外資系企業	1(1%)	1(0.9%)
5. 起業	1(1%)	10(9.2%)
6. 研究機関	6(7%)	0(0%)
7. 高等教育機関	15(18%)	12(11%)
8. 小中学校	2(2%)	3(2.8%)
9. 医療衛生機関	4(5%)	1(0.9%)
10. 他の事業期間	2(2%)	2(1.8%)
11. まだ決めていない	16(20%)	32(29.4%)
合計	82(100%)	109(100%)

表 22.あなたは将来どの領域に就職したいですか。

	九州大学	北京大学
選択肢	回答者数(%)	回答者数(%)
1. 農林畜産漁業	3(4%)	0(0%)
2. 鉱石採掘	1(1%)	1(1%)
3. 製造	2(3%)	1(1%)
4. エネルギー	1(1%)	4(4%)
5. 建築	0(0%)	0(0%)
6. 小売業	0(0%)	0(0%)
7. 交通運輸	0(0%)	0(0%)
8. 飲食業	0(0%)	0(0%)
9. IT 技術	1(1%)	16(15%)
10. 金融	3(4%)	11(10%)
11. 不動産	0(0%)	0(0%)
12. 文化・体育・娯楽	6(8%)	9(8%)
13. 教育	30(38%)	15(14%)
14. 公共管理と社会組織	15(19%)	17(16%)
15. まだ決めていない	18(23%)	35(32%)
合計	80(100%)	109(100%)

<註>

(1)本調査票及び中国側データは、北京大学教育学院の鮑威副教授が九州大学教育学部の2020年度前期集中講義科目「教育組織社会学」の講師を担当した際に、教育計画・測定評価論研究室に提供頂いたものである。本来は講義内における学生のデータ発表の場で利用する予定であったが、諸般の事情で集中講義内での発表に至らなかった。本稿では、その際に提供いただいた調査票を研究室内で邦訳し、調査を実施するに至ったので、その結果を速報として報告する。

<参考文献>

九州大学,2019,『九州大学大学案内 2020』

<https://www.kyushu->

[u.ac.jp/f/37485/%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E6%A1](https://www.kyushu-u.ac.jp/f/37485/%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E6%A1)

[%88%E5%86%852020A4.pdf](https://www.kyushu-u.ac.jp/f/37485/%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E6%A1%88%E5%86%852020A4.pdf)